

あの日から5年

平成23年3月11日を境に、私たちの暮らしや防災意識は大きく変わりました。被災した香取市の復旧と災害対策は、また、岩手県山田町へ向けられた思いとは一。震災から5年となるのを機に取り上げます。

東日本大震災による 市内の主な被害状況

避難所の利用者は延べ1,256世帯、2,797人に達し、旧佐原第二中学校運動場に建設された応急仮設住宅は最大30世帯77人が利用しました。学校や消防などの公共施設が使用不能になるなど、多大な被害が発生しました。

また、被災各地でガソリンなどの燃料や食料、生活必需品が入手にくい状況となり、不便な生活を強いられました。

※下記金額は復旧工事費

■建物被害

全壊224戸、大規模半壊1,112戸、半壊1,412戸、一部損壊多数
液化化被害3,500戸のうち、住宅地約140戸

■水道施設被害

断水世帯数19,768世帯、断水解消まで37日間

対象…33カ所、管路延長…19.1km

総額…約5億8,000万円

■下水道施設被害

影響世帯…公共下水道1,525世帯、農業集落排水255世帯

◇公共下水道

対象…20カ所、管路延長…13.56km、総額…約14億円

◇農業集落排水

対象…12カ所、管路延長…2.50km、総額…約2億1,000万円

■道路・河川被害

対象…道路695カ所・河川23カ所、総額…約28億4,000万円



減災に向けて

第1章

東日本大震災では香取市も地盤の液化化現象が発生するなど著しい被害を受けました。今も住み慣れた家から離れた生活を余儀なくされている方がいます。次の地震災害に備えた対策も進められています。一方で、日に日に危機感が薄れていくのも確かです。地震は、いつ、どこで、どのくらいの規模で発生するのか予測が極めて困難です。地震による被害を最小限に抑えるために、一人ひとりが適切な行動をとることが重要です。あの震災を忘れずに、いざというときの心構えと準備を、もう一度確認しましょう。

一瞬の行動が身を守ります

緊急地震速報は、地震による強い揺れが来ることを素早く知らせるシステムです。気象庁から、テレビや携帯電話などに情報が配信されます。ただし、直下型地震の場合は緊急地震速報が出ないこともあります。緊急地震速報を確認し、認める際は大きな地震が発生した時は、周りの人にも声をかけながら、慌てずに、まず身の安全を確保しましょう。

■家庭では
◇頭を保護し丈夫な机の下などに隠れる
◇慌てて外に飛び出さない
◇無理して火を消そうとしない

■屋外では
◇ブロック塀の倒壊などに注意
◇看板や割れたガラスの落下に注意
◇丈夫な建物のそばであれば

建物の中に避難する
■自動車運転中は
◇ハザードランプを点灯し、周りの車に注意を促す
◇急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落とす
◇周囲の状況を確認し、道路の左側に停止する

家具の転倒防止を
地震で負ったけがのうち、約4割は家具類の転倒・落下が原因と言われています。建物の構造や部屋の状況に応じた対策を講じ、自身や家族の身を守りましょう。
■大きな家具に注意
大地震では、テレビが飛び、タンスが倒れかかっています。阪神・淡路大震災でも、多くの人が大きな家具の下敷きになり尊い命を失いました。まずは、固定具などで倒れないようにしましょう。

飲料水兼用耐震性貯水槽が6カ所に



水道本管と接続され、常に水が入り替わります。

■設置箇所 市役所本庁駐車場(震災前に整備済み)、新島中学校、小見川市民センター駐車場、府馬小学校、栗源消防訓練場、潮来十四番地区集会所(潮来市と共同で設置)

■貯留水量 100m³…1人1日3ℓの換算で1万人の3日分相当(潮来十四番地区集会所は5m³)

災害対策情報

自主防災組織をつくらう

自主防災組織とは、地域住民が自主的に連携して防災活動を行う組織のことです。組織として役割分担や連絡網ができていれば、助け合いがしやすくなります。特に、一人暮らしの高齢者や幼い子どもを抱える家庭では、災害時の避難が困難になる場合があるので、地域で協力することが大切です。

また自主防災組織を設立していない地域は、この機会に設立を検討ください。新設の自主防災組織は、市から20万円を限度としてヘルメットや担架などの防災用資機材の支給が受けられます。自主防災組織を新設する場合は、ぜひ相談ください。

徒歩帰宅者を支援します

大規模な災害時には、公共交通機関が運行を停止し、多くの人が徒歩で帰宅する考えられます。火災や建物からの落下物などにより、負傷する恐れがあるほか、救助・救急活動の妨げとなりますので、むやみに移動せず、落ち着いた行動を心がけましょう。

千葉県を含む九都県市では、コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなどと徒歩帰宅支援に関する協定を締結しています。これらのお店では、災害発生時に水道水の提供、トイレの使用、道路交通情報などが可能な範囲で提供されます。該当店舗には、「災害時帰宅支援ステーション」のステッカーが掲示されています。日頃から帰宅経路の店舗の場所を確認しておくことで安心です。

千葉県石油商業組合に加盟する県内のガソリンスタンド

※九都県市：千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県、さいたま市、横浜市、川崎市、相模原市

このステッカーが目印



▶コンビニエンスストアなど



千葉県石油商業組合に加盟する県内のガソリンスタンド

問総務課 ☎(50)1201

もう一つの被災地

合併前の山田町と岩手県山田町とは、同じ町名が縁で昭和60年10月20日に姉妹都市となって以来、産業まつりの相互参加や小中学生が交互に訪問するなど交流を深めてきました。香取市になって民間レベルでの交流に移った今も、「山田ふれあいまつり」には岩手県山田町の海産物が並びます。

あの日、東北地方が壊滅的な被害を受けていることを報道などで知り、岩手県山田町の名が出るたび心を痛めた人が少なからずいた山田地区。親交のある家族に布団やタオルなど家にあった生活用品を次々に送った人、直後に炊き出しに行った人、「何か役に立ちたい」という気持ちを募らせグループで現地へ赴いた人…。その後も交流を重ねている人の中から、以前の、そして震災後の話を聞きました。

平成23年3月11日(金) 午後2時46分 地震発生
震源地…三陸沖、震源の深さ…24km
地震の規模…M9.0、山田町の震度…5強(大沢地区)
地震から3分後の午後2時49分 大津波警報発表
大津波警報から35分後の午後3時24分 津波襲来
津波襲来から1分後の午後3時25分 火災発生確認
津波被害は田の浜地区で最大浸水深約19m
3.11死亡者数 823人(うち認定死亡者数 210人)
(うち遺体判明者数 66人)
被災前の人口 19,270人(平成23年3月1日住基台帳)
被災後の人口 16,455人(平成27年11月1日住基台帳)
被害家屋 3,369棟(46.7%)

まずは子どもたちの交流を進めたいという町の要請で、昭和61年に小学生10人、中学生5人を第一山倉小の校長先生と山田中の先生2人、そして私が引率して岩手県へ行きました。交流会は夏休み中の2泊3日。バスで片道14時間くらいかかりました。

山田町は海がきれいで、遊覧船に乗ってエサをやるとう

豊かな海との出会い



児童生徒の交流会発足当時に教育委員会に在籍し、引率の岩手県山田町の先生と交流が続く
奈良律子さん(山倉)



岩手県山田町
岩手県沿岸のほぼ真ん中



▲交流会で海洋スポーツを楽しむ子どもたち

ある家族の交流記



小学生の娘さんが交流会に参加した
鈴木紀代子さん(神生)

昭和61年に岩手に行った娘(恵美子さん)が、こんなに楽しかったことはな

た。その後、娘が仲良くなった赤瀬さんへ家で作っている野菜を送り、養殖業をしている赤瀬さんからはカキ、ホタテ、鮭、生ワカメなどを送っていただくというやり取りが続いていました。

震災の直後は電話がつながらず、もし、赤瀬さんが無事で避難所にいるようなら、自宅の部屋を提供しようかと夫とも話をしていたんです。その後、山田町役場で安否情報を教えてくれると聞き、電話して無事を

知りました。赤瀬さんの家は無事でしたが養殖で使っていた船が流されてしまい、漁業が再開できずにいました。そういう中でも、アワビの肝や茎付きのワカメなど珍しいものを送ってくれたときは、毎回、ていねいに調理方法を教えてくださって…。その時々の近況なども書き添えてくださるので、お会いしたことはないのですが、前向きに歩んでいる姿を思い、千葉から応援しています。

ミネコがたくさん寄つてきて、子どもたちはもう大騒ぎでした。島では小さなカヌーやヨットに乗せてもらい、地元の子たちがリーダーになって、いろいろ教えてくれたんです。そこで食べたウニがまた、とってもおいしくて。採れたてをその場でむいてくれたんですよ。ウニはこんなに甘いものなんだと、その時初めて知りました。岩手県での交流会は、子どもたちも私

も本当に感動しました。その後、こちらに引率で来られた佐藤幸男さんと年賀状の交換が始まり、鮭やイクラなど海の幸をたくさん送っていただくようになりました。

花を届けに岩手へ

その佐藤先生も津波の被害に遭いました。当時は電話もつながらなかったため、安否確認のツイッターで娘に探してもらい、無事だと聞いた時はほっとしました。

それからずっと気になっていましたが、気持ちを届けることしかできないでいたんです。しばらくして商工会女性部有志で行くと聞き、私も加えてもらうことにしました。

震災から一年以上経った山田町。何にもない所にブロックやお風呂といった家の痕跡があるんです。海がきれい

だったのが、余計に悲しくて。その時は皆さんの気持ちが少しでも安らげばと、「花は咲く」の歌にちなみガーベラを持って行ったんです。気持ちよくもらってくくださる方もいました。中には飾る場所も余裕もないっておっしゃる方もいて、「そういう方もまだたくさんおられるんだな」と思いました。また一方で、協力してくださった山田町の商工会女性部の皆さんが、すごくパワフルで、こちらが元気をもらいました。

最初の訪問では、佐藤さんには会えませんでした。再び訪れた時は仮設住宅へ伺うことができました。また、現地を歩いていたら偶然「千葉の山田町へ運転手で行ったことがあるよ」という人と出会い、20数年の交流を続けてきた縁を強く感じました。

岩手県山田町への復興支援

- 平成23年5月20日・21日 義援金667万7000円を贈る。「復興けんちんうどん」の炊き出し
 - 平成23年11月26日 道の駅やまだで香取市特産品の配布・炊き出し
 - 平成24年11月25日 山田町役場前仮設商店街で香取市特産品の配布・炊き出し
 - 平成25年10月20日 山田町農業まつりで香取市特産品物産交流、和太鼓吹奏楽文化交流
 - 平成27年1月25日 宮古・下閉伊冬の産直まつりで香取市特産品物産交流
 - 平成27年11月21日 仮設住宅にて香取市特産品と蒸かし芋・甘酒の配布
- これまでの参加団体** 岩手県山田町に義援金を送る会、(株)和郷、やまだ元気隊、香取市商工会女性部有志、ボランティアグループなかよし、復興山田交流会、長嶋牧場、和太鼓舞華、(有)須澤運送、香取市など
- ④千葉県香取市及び岩手県山田町の災害時における相互応援に関する協定を締結(平成25年3月15日)
- ⑤応急復旧に必要な職員の派遣
- ◇文化財調査職員：防災集団移転促進事業(平成25年4月1日〜平成27年3月31日) 延べ8人派遣、◇土木技師：道路復旧事業や被災建物解体事業(平成27年4月1日〜) 延べ2人派遣

(4頁に続く)

毎年、やまだ元気隊と一緒に有志で岩手県山田町を訪れている前・香取市商工会女性部部長の林 勝子さん（大谷）



皆の思いを行動に

テレビで岩手県山田町の映像が流れた時は、姉妹都市だったことを思い、すぐにも行きたいと思いました。ほどなくして商工会女性部長になり、その話を切り出すと、部員も「皆で岩手に行こう」と賛同してくれて。だれもが同じように思っていたんです。話が具体化するまでに、まずは私にできることをしようと、仕事の傍らサツマイモ作

りを始めました。岩手では、芋が喜ばれると思って。それからやっとなら、やまだ元気隊と同行することが決まり、部員の「あったかい手づくりのものを食べてもらいたい」という声もあり、芋を使ったまんじゅうを作ろうとひらめいたんです。それから、カボチャまんじゅうをヒントに何人かの部員たちと試行錯誤を繰り返してレシピを作りました。



懸命に生地をこねてくれた人もいて、夕方には900個を蒸かしあげました。

岩手女性の強さに触れ

平成24年11月、初めて岩手県山田町で迎えた朝。早くから、お年寄りたちが待っていていました。現地で残りのまんじゅう作りを始めるのと、山田町の商工会女性部のお母さんたちがお手伝いに来

てくれたんです。皆さんも家が流されてしまったというのに、元気はつらつと私たちを応援してくれたのです。会ったばかりとは思えないほど一致団結して1000個も作り、合計1900個もできました。蒸かしたてのまんじゅうに「わあー、あったかい。おいしい」という声が聞こえてきた時は、来てよかったと胸をなでおろしました。

まんじゅうを配っていた時、手伝ってくれた部長さんが並んだ皆さんに「まんじゅうは一人一個よ。お写真の分はなのよ。寝ているじいちゃんだけよ」と繰り返し声をかけていたんです。「お写真」とは被災し亡くなった人の遺影のことでした。この状況でこの言葉を言える部長さんの強さと、言わなくてはならない

つらさを思うと胸がいっぱいになりました。その後は毎年訪問するようになり、この交流で3つの絆が強まったと思っています。協力しあえる関係が築けた地元の商工会女性部員たちと、応援してくれる家族、そして岩手県山田町のお母さんたちとの絆です。また、こういう活動は、してあげるではなく、させていただくということもよく分かりました。



▲山田町の商工会女性部の皆さんと

三陸の幸で人もまちも元気に



山田ふれあいまつりに毎年出店川石水産社長 川石 睦さん（岩手県山田町）

この写真から特集動画がご覧になれます

震災直後は荒れ果てた町を見て途方に暮れました。しかし、寝る場所もなくテントで暮らす人々や子どもたちを見て、人脈を頼り、災害救援活動を開始し急場をしのぎました。全国からたくさんの救援物資が寄せられたときは大変ありがたかったです。震災後に会社を再建するとき、カキ、ホタテの主力海産物だけでなく、地元の魚も扱おうと決めました。現在、三陸の海産物は、質の良さから国内外で認知度が高まり、台湾や香港などにも輸出しています。町が落ち着きを取り戻したら、ゆっくり訪れてもらえるような、そんな、人を受け入れられる町でありたいです。香取市の山田ふれあいまつりでは、皆さんが心待ちにしてくれているのを感じます。皆さんに声をかけていただき、1年に1回訪れるのをとても楽しみにしています。

ある家族の交流記



ホームステイで生徒の受け入れをした佐藤ひろ子さん（岩手県山田町）

平成6年の交流会で息子と同じ中学3年生の飯島健寿さん（長岡）がわが家にホームステイに来ました。

「こんなおいしいもの食べたことない」って海産物を豪快にたくさん食べてくれた。まるで家族が一人増えたかのようなにぎやかなひとときでした。でもその半年後、息子は病気で亡くなってしまいました。それでも飯島さんとの交流は続きました。一度電話をすると近況報告などで2時間くらい話してしまうこともあり、息子も生きていればこんなふうにならなうに成長したんだろうなと思いを重ねていました。震災前年

には、奥さんと子どもを連れて息子さんのお墓参りに来てくれました。あの津波で家は流されてしまいました。連絡先だけは握りしめて、背後にまで迫った津波を振り切るように必死で自転車をこぎ逃げました。震災から10日ほどして、避難所の電話から千葉の家に電話をし、無事を告げると、家族中で喜んでくれました。今も仮設住宅に住んでいます。交流は続いています。

笑顔の力になりたい



復興山田交流会会長 熱田正人さん（長岡）

長岡神楽保存会会員として活躍している熱田さん。昨年11月21日には、やまだ元気隊、香取市商工会女性部有志、香取市などと一緒に総勢27人で仮設住宅を訪問しました。（写真中央）

今回の活動に際し、参加した仲間や物資を提供してくださった方、準備や調整など活動を支えてくださった多くの方々に感謝します。さまざまな方の想いと特産品を抱え仮設住宅を訪問しました。涙ながらに当時の様子、亡くなった身内のことなどを話してください。震災の悲惨さを痛感し、かける言葉さえ見つかりません。それでも別れ際、前を向いて生きていくという力強い言葉を受け握

手を交わし、最後にパワーをいただきました。また、交流の中で、山田町で神楽が盛んであると伺い、自分たちが伝承している神楽と重ね合わせ、新たな交流活動につながるのではと思いました。復興はまだ道半ばですが、これからもいろいろな縁を大切に自分たちのできる範囲の活動で、少しでも復興の力、笑顔の力になりたいという思いを募らせました。

震災直後いち早く店頭からなくなった水や食糧。停電の中、電池を切らしていたラジオ。買いそろえた後、点検をしていない非常食。いつか用意しようと思っていた非常持出袋……。あのとき痛感した日頃への備えの大切さ、災害はいつかまた起こること、そして、今も大変な思いをしている方のことを、忘れてはいけないと思います。でも、この特集は、震災を忘れないための記事ではありません。今、自分に出ることを「思い出す」。そんな役に立てたでしょうか。